

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 22 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	中野 勝光

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター、愛知県犬山市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 7 月 7 日 ~ 平成 26 年 7 月 9 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習では、動物園としては国内唯一の登録博物館である日本モンキーセンターで、動物園・博物館の役割・仕事についてレクチャーをしていただいた。 まず初日の午前には、伊谷園長から霊長類学の興りから日本モンキーセンターの発足まで、日本における霊長類研究の歴史について学んだ。 初日の午後には、博物館の役割の 1 つである、標本の管理として、標本作製の方法をレクチャーいただいた。またその後には、実際にサルの骨格標本の分別作業を体験させていただき、骨の細部や構造について知ることができたとともに、博物館の学芸員の仕事である、標本管理の一端を体験することができた。 2 日目には飼育実習として、飼育部屋の掃除やチンパンジーの feeder 作りを体験した。feeder は餌を与えられている動物園の動物にとって、より食事の時間を長くする効果があり、エンリッチメントにつながることを知った。実際に、feeder を与えると、チンパンジーは夢中になり、採餌しており、feeder の効果が十分にみられた。 2 日目の午後には、来園者調査として、自ら決めた「モンキーバレイ」で、来園者の滞在時間と会話の内容について調査した。餌やり体験ができる場所であったこともあり、滞在時間は比較的長く、会話の内容としては、強いサルがいることを話していた。サルの群れに順位があることに気付いてもらっている点では、展示の方法として成功していると感じた。一方で他の調査者の報告では、思っていたよりも滞在時間が長くなく、一般の方により動物を見て知っていただくためにも、興味をひくような展示を考えることも、動物園の役割であり、来園者調査は大切な活動であると感じた。 3 日目には獣医師の仕事として、ニホンザルの個体数調整のための、手術の様子を見学させていただいた。個体数の増えすぎも、減りすぎも良くないので、個体数を適切に維持するのも、動物園での仕事の 1 つであることを知ることができた。 3 日間の実習を通して、博物館としての動物園の多様な役割を知ることができた。登録博物館としては唯一である日本モンキーセンターでは、他の動物園では体験できないことも体験することができた。特に標本の作製や収集の規模は、他の動物園には類を見ないものであり、貴重な資料の管理の場となっていることも知ることができ、大変重要な役割を担っているのだと感じた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Feeder から採餌するチンパンジー

6. その他 (特記事項など)